

## 1 目的

市の障がい者福祉に関する課題のうち、行政で取り組むこと、協議会で取り組むことを整理し、協議会の方針を決める。

### 2-① 目標、達成度

障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題の解決に向けた取組の方針が、運営会議構成員内で共有され、具体的な取組が整理されている。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
------------------------------------------------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
相談支援事業等（個別支援会議や事例検討会等）で確認できた地域課題の報告を基幹相談支援センターから受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会や相談支援専門員が対応している個別のケースの他、サービス担当者会議から抽出した課題について確認した。</li> <li>個別ケースからの地域課題の抽出方法について、基幹相談支援センターと検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題が整理され、運営会議構成員で共有できた。</li> <li>運営会議構成員が、相談支援業務の中で地域課題を意識できるようになった。</li> <li>地域課題を踏まえて、次年度の協議会運営について検討することができた。</li> </ul>	地域課題の解決方法について、協議会及び相談支援事業等で対応できる課題かどうか整理を行い、具体的に検討する必要がある。
地域課題の解決に向けて、どのように取り組むか協議する。			
必要に応じて、他の機関・会議体へ働きかける。			

### 2-② 目標、達成度

各専門部会及び検討チームが滞りなく運営され、他部会等と協働して取り組まれている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
------------------------------------------	----------	------	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
必要に応じて、各専門部会等の運営についての協議・助言を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門部会等の担当から報告を受け、年間計画表と照らし合わせながら進捗確認を行った。</li> <li>必要に応じて、他部会等と協働できるよう運営についての協議・助言を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門部会等が、年間計画表に沿って運営し、一定の成果をあげることができた。</li> <li>3つの検討チーム及び2つの部会で協働して取組を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた時間の中で活発な意見交換と運営ができる工夫が必要である。</li> <li>今後も継続して他部会等同士で協働した取組が増えると良い。</li> </ul>

### 2-③ 目標、達成度

全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-------------------------------	----------	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
各専門部会等の報告に加え、全体会構成員全員で協議を行えるような議題について検討し、決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体会前に議題（協議内容）を話し合い、運営会議構成員間で共有した。</li> <li>全体会で初の試みとして、第2回全体会でグループワークを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会等の取組を共有でき、全体会を円滑に進めることができた。</li> <li>協議すべき内容に優先順位をつけ、限られた時間で検討することができた。</li> <li>全体会構成員一人ひとりに我が事として捉えてもらうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前より改善しているが、全体会が各部会等の報告に時間を取られ、意見交換の時間が少ないため、今後も協議方法の検討が必要である。</li> <li>今後もグループワークを継続して実施できると良い。</li> </ul>

## 4 次年度の目標（案）

- 障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題の解決に向けた取組の方針が、運営会議構成員内で共有され、具体的な取組が整理されている。
- 各専門部会及び検討チームが滞りなく運営され、他部会等と協働して取り組まれている。
- 全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。

# 令和7(2025)年度みよし市地域自立支援協議会 地域生活支援拠点等整備検討チーム 事業報告書

(作成：令和8(2026)年3月11日、担当：相談支援OKサポート 相談支援専門員)

## 1 目的

障がいの重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための5つの機能を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい児(者)の生活を地域全体で支える体制を構築する。

## 2-① 目標、達成度

みよし市における地域生活支援拠点等整備に向けて、地域の状況を確認し、関係機関で共有できている。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
-------------------------------------------------	----------	-----	--------	----

## 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
手引きを用いながら、拠点等整備の方針、取組をプレゼンテーションし、共通認識を持てるようにする。	おかよし地域包括支援センター職員及びCSW(おかよしミーティング)、民生児童委員70人(民生児童委員全員協議会)にプレゼンテーションを行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者(児)の支援体制や「地域生活支援拠点等体制整備」の方針及び取組について周知することができた。</li> <li>異なる分野の支援体制や各事業所の取組等を情報交換し、現状を確認できた。</li> </ul>	今後も継続して周知及び啓発を行うとともに、具体例などを示しながらより分かりやすく方針や取組を伝え、巻き込む方法の検討が必要。
地域診断表に基づき、市内事業所の取組を把握する。	昨年度実施していなかった市内障がい福祉サービス2事業所にプレゼンテーションを行い、事業所の取組を調査した。		
地域生活支援拠点等整備コーディネーターの配置に向けて検討し、役割を明確化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹相談支援センター会議において、今後の相談支援体制及び地域生活支援拠点等整備コーディネーターの配置に向けて検討した。</li> <li>地域生活支援拠点等整備に関するオンライン研修を受講し、同規模自治体の相談支援専門員と意見交換を行った。</li> </ul>	主任と委託、指定特定(障がい児)の相談支援専門員の機能を整理し、役割が明確になった(主任はマネジメント、委託及び特定はケース対応)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みよし市のコーディネーター機能をより明確にする必要がある。</li> <li>コーディネーターの配置に向け、更なる整理及び業務分担を行う。</li> </ul>

## 2-② 目標、達成度

多機関が協働し、課題の解決に向け取り組まれている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---------------------------	----------	------	--------	----

## 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
地域診断表の評価項目のうち、緊急時の受入・対応、体験の場、専門的人材の確保養成のレベルアップに向けて、各担当と協働する(暮らしの場検討チーム、人材育成検討チーム、基幹相談支援センター各担当)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門部会等に参加し、拠点等整備に関わる取組を確認した。</li> <li>暮らしの場及び人材育成検討チームの事務局担当者に協力し、打合せやワーキングに参加した。</li> <li>第2回全体会で、相談支援のレベルアップに向けてグループワークを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門部会等の取組を地域診断表にまとめることができた。</li> <li>拠点等整備検討チーム事務局が協力することにより、各検討チームが以前よりも地域診断表のレベルアップを意識した運営(取組)ができるようになった。</li> </ul>	他項目のレベルアップに向けた検討が必要。

## 2-③ 目標、達成度

令和4年度の取組で提案のあった4つのテーマに関して、具体的に取り組まれている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-----------------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
防災活動を通じた地域づくりについて、おかよし地域における取組に参画する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>重層的支援体制整備事業（多機関協働事業）での防災ミーティング「mochimochi」に参加し、情報収集した。</li> <li>重層的支援体制整備事業（地域づくり事業）での避難行動要支援者の見守りネットワーク構築に協力し、行政区役員と福祉専門職の話し合いや個別計画作成に向けた取組に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災活動は様々な分野において共通する課題となっていることが確認できた。</li> <li>これまで関わる機会の少なかった行政区役員等と顔を合わせて話し合うことができ、相互理解につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災及び災害時対応は、日常生活の延長線上にあるという意識を持ち、取組を継続させることが必要。</li> <li>市地域福祉計画や障がい者計画に記載されている防災及び災害時の対応の項目に対し、自立支援協議会としてどのようなことができるか検討する。</li> <li>おかよし地域以外の防災活動の現状及び課題を確認する。</li> </ul>
おかよし地域の取組を自立支援協議会構成員に報告し、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月開催する運営会議で上記内容を報告し、構成員と共有した。</li> <li>防災をテーマに、人材育成検討チームによる管理者研修を開催した。</li> <li>福祉課主催の地域共生社会推進研修に協力した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成検討チームとも協力し、防災及び災害時の対応に関する事業所ネットワーク構築に貢献できた。</li> <li>おかよし地域の取組を市職員及び福祉関係職員に周知することができた。</li> </ul>	

## 4 次年度の目標（案）

① みよし市における地域生活支援拠点等整備に向けて、地域の状況を確認し、関係機関で共有できている。
② 多機関が協働し、課題の解決に向け取り組まれている。
③ 令和4年度の國信ゼミで選ばれた4つのテーマに関して、具体的に取り組まれている。 （4つのテーマ…ウォーキングマップ作り、防災意識を高めるためのイベント、支援のマッチングアプリ、飼い主の入院時のペットの保護）

1 目的

障がい福祉従事者がソーシャルワークを意識して、業務に取り組めるようになる。

2-① 目標、達成度

利用者の生活全般を意識して、ソーシャルワークの視点をもつ障がい福祉従事者が増えている。	取組内容の達成度	10%	次年度の方向	修正
---------------------------------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
市内の障がい福祉従事者から研修委員を募り、研修を企画・運営するための具体的なプロセスについて学ぶ機会を設ける。 昨年研修委員の事業所の課題をリサーチし、事業所内の研修を一緒に組み立てていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年度の研修委員が所属する3事業所(みよし市社会福祉協議会、おーけーらいふ、ドリームアップ)にヒアリングを行った。</li> <li>• 事業所内の研修の組み立てまでには至らなかった。</li> </ul>	人材不足や働き方改革等の理由から事業所としては職員を頻りに派遣するには負担が大きい一方で、他事業所を知ることは職員としての視野が広がっているという効果が確認できた。	開催する研修の在り方の見直しを再度行う。

2-② 目標、達成度

障がい福祉従事者同士の関係性が深まり、地域の現状と課題等について話し合うことができる。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---------------------------------------------	----------	------	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
各事業所のビジョンと地域の課題を共有し、話し合うための場として管理者対象の研修を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 12月23日及び1月29日に、「防災」をテーマに管理者研修を開催した。防災安全課に協力を依頼し、みよしの現状を確認した。</li> <li>• 参加した市内16事業所を地区別にグループ分けし、近隣事業所同士でグループワークを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 近隣事業所同士の連携で具体的にできることを考えてもらうことができた。</li> <li>• 研修後のアンケートで、参加者全員から他事業所との距離感が近くなったと回答があった。</li> </ul>	参加事業所が一部に限られているため、参加に至らない事業所の参加が課題。
市内障がい福祉従事者が気軽に意見交換できる機会を設ける。	2月20日に市内事業所職員を対象とした懇親会を開催し、50名の関係者が参加した。	アンケートで参加者の9割以上から気軽に意見交換できたと回答があり、話しやすい雰囲気の中でコミュニケーションが図られ、関係性を深めることができた。	継続してコミュニケーションを図り、関係性を深められる場を設ける。

2-③ 目標、達成度

市内の強度行動障がい者(児)を受け入れられる事業所の人材の確保、育成ができています。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
--------------------------------------------	----------	------	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
強度行動障がい者(児)への他市町の取り組みをリサーチする。	豊田市の強度行動障がい支援事業の立ち上げの経緯と現状について確認するため、9月にヒアリングを行った。	豊田市が実施している強度行動障がい者児を受け入れている事業所への専門支援員派遣事業と同様の事業を愛知県が行っていることが分かった。	市内関係事業所に対して愛知県が実施する事業を周知するとともに、みよし市の支援体制の構築に向けて検討する。

#### 4 次年度の目標（案）

- |                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------|
| ① 障がい福祉従事者同士の関係性を深め、ソーシャルワークの視点を持つ人材が増えている。                                      |
| ② 障がい福祉事業所が当事者意識を持って地域の課題等に取り組むことができている。                                         |
| ③ 強度行動障がい者（児）を受け入れられる事業所のネットワークが構築できている。（支援の引き出しが増えている。相談先ができ、悩みを抱え込まない状態がでていく。） |

##### 【みよし市におけるソーシャルワークの定義】

ソーシャルワークとは、人権と社会正義を大切にすることであり、社会に問題があれば社会を変え（社会変革）、人間関係に問題があればその問題を解決し、人々が本来持っている力（エンパワメント）をうまく引き出すことである。具体的には、人の行動と社会のシステム（仕組みと働き）に関する理論をうまく使い、人々が社会や環境と互いに影響しあうところに働きかけることをいう。

※引用：国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義（意訳）長崎和則

＝地域づくり（社会変革）と人づくり（エンパワメント）

令和7(2025)年度みよし市地域自立支援協議会 暮らしの場検討チーム 事業報告書

(作成：令和8(2026)年3月11日、担当：福祉課)

1 目的

障がい者(児)が、地域で安心して生活を送ることができる仕組み(緊急時の受入れ体制、暮らしの場の確保、宿泊体験の場・機会)を構築する。

2-① 目標、達成度

緊急時の受入れ体制が整備され、必要時に運用されている。(3か年計画の1年目)	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
----------------------------------------	----------	------	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
事業所が対象者を受け入れるにあたり、必要な情報が得られるようなシートを作成する。	緊急時対応ワーキング(しおみの丘(おひさまハウス)、さくらの丘、共同生活援助事業所わらび、泰山寮、オルオル)を開催し、情報シートの作成に向けて協議、検討を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時に対象者を受け入れる際の情報シートが完成した。</li> <li>情報シートに加え、ワーキング参加各事業所の対象者受入れのフローを作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時を想定したシミュレーション結果に基づき、事務局及びワーキング参加各事業所が作成した対象者の情報シート及び受入れフロー(以下「シート等」)の改善を図る。</li> </ul>
シートを基にシミュレーションを行い、課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の対象者情報シート及び受入れのフローを基に、身体、知的各障がい者の緊急時を想定して2事業所で受入れシミュレーションを実施し、課題を確認した。</li> <li>緊急時対応ワーキングで、シミュレーション後のふりかえりを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーション及びふりかえりを行うことで、本人及び家族、各サービス及び緊急時受入れ事業所、相談支援専門員等の役割ややるべきことが明確になり、改善につなげられる見込み。</li> <li>参加者間で臨場感、危機感を共有できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善したシート等を基に、受入れシミュレーションを継続して行うことで課題を確認し、緊急時対応の精度を向上させる。</li> <li>そもそも緊急事態が発生しないよう、本人及び家族、各サービス事業所、相談支援専門員等で緊急時のプランや体制を準備する。</li> </ul>
新たな受入れ先を確保する。	令和7(2025)年5月オルオル(グループホーム)が開所したため、(NPO)いきもの語りと緊急時受入れの協定を締結した。	知的障がい者(児)に加え、身体障がい者・児(重心・医療的ケアのある者含む)の受入れ先候補ができた。	知的障がいの緊急時受入れ事業所(3法人)に身体障がいの受入れ事業所も加わったが、あらゆる事態を想定し、受入れ先候補を増やす。

2-② 目標、達成度

居住支援に関する協議の場が設置されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-----------------------	----------	------	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
居住支援協議会設置に向けて、関係部署の協議に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅部局(生活環境課、都市計画課)、生活困窮者自立相談支援機関、福祉課の協議に参加した(5回)。</li> <li>居住支援協議会を設置している先進自治体の視察に同行した(岡崎市、瀬戸市)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援協議会として障がい者の住宅確保等に関する課題を報告し、参加者で共有した。</li> <li>次年度、居住支援に関する協議の場(プロジェクトチーム)が設置される見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住支援協議会の設置には至っていないため、プロジェクトチームに参加した委託相談支援事業所代表者と共に、設置に向けての協力を継続する(実績報告、課題整理等)。</li> <li>居住支援協議会設置に向けた状況を自立支援協議会構成員に報告し、共有する。</li> </ul>
居住支援協議会設置準備の状況を自立支援協議会構成員に報告し、共有する。	毎月の運営会議で上の内容を報告し、自立支援協議会としての意見(意向)を聴取した。	居住支援に関する協議の場には、委託相談支援事業所の代表者が参加できる見込み。	

## 2-③ 目標、達成度

生活体験できる多様な場及び機会が確保されている。(3か年計画の1年目)	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-------------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
相談支援専門員等に、障がい者(児)が生活体験を行うにあたって必要な場や機能に関する調査を行い、現状と課題を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験を行うにあたって必要な機能や場に関する調査票を作成し、その結果を基に、現状と課題を意見交換した。</li> <li>施設入所者の地域生活体験に必要な機能等について、泰山寮と意見交換を行った。</li> <li>新設するグループホームの機能について、(社福)あさみどりの風と意見交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅以外での生活、入所系施設からの地域移行及びグループホームから一人暮らしに向けて等、個々のニーズに合わせた生活体験の場や機能の整備が必要であることが分かった。</li> <li>生活体験の機能や場の整備に前向きな事業所が複数あることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験を希望している者を選定して計画を作成し、具体的に実行して課題を確認する。</li> <li>現在、市内にある生活体験の機能や場では個々のニーズに対応できないため、拡充する必要がある。</li> </ul>
市内で生活体験を行うことのできる場や機能等を一覧にまとめる。	市内で生活体験を行うことのできる場や機能等の調査票を作成し、市内事業所に回答を依頼した。	市内で生活体験を行うことのできる場や機能等の一覧ができ、数と場所、内容等が把握できた。	

## 4 次年度の目標(案)

① 緊急時の受入れ体制が整備され、必要時に運用されている。(3か年計画の2年目)
② 生活体験できる多様な場及び機会が確保されている。(3か年計画の2年目)
③ 居住支援に関する体制が整備されている。(3か年計画の1年目)

# 令和7（2025）年度みよし市地域自立支援協議会 児童部会 事業報告書

（作成：令和8（2026）年3月11日 担当：みよし市社会福祉協議会 相談支援専門員）

## 1 目的

障がい児の早期発見とライフステージに応じた地域での生活を支援するための協議及び事業を行うことにより、障がい児の福祉、保健、保育及び教育を実施する関係機関の職員及び家族の療育意識を高め、障がい児福祉の向上を図る。

## 2-① 目標、達成度

市内保育園在籍の乳児（0～2歳児）で発達気になるお子さんがイキイキと過ごせるよう、その育ちを支える環境を整えていく。（3か年計画の3年目）	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	終了
-----------------------------------------------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
令和6（2024）年ワーキングにおいて保育課、ふたば及びこども相談課から提案のあった相互理解の取組と保育園等訪問相談事業の実施状況等や効果の確認をする。	部会において、こども相談課が実施する相互理解の取組（1歳6か月健診の講義・見学）及び保育園等訪問事業の実施状況を確認した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互理解の取組は、参加者の満足度も高く、健診前後に園とこども相談課で連絡することも増え、支援者間の連携が深まっていることが分かった。</li> <li>保育園等訪問事業は、今年度から3期に分けて実施し、申請総数も増加したことが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互理解の取組及び保育園等訪問事業は、多職種で協議や検討を行う場が既に設置されているため、部会での進捗確認は今年度で終了とする。</li> <li>こども相談課が開催する勉強会に次年度以降も相談支援専門員が参加継続し、そこで抽出された課題を部会に提言する。</li> </ul>

## 2-② 目標、達成度

保護者が安心して子育てをしていく体制ができている。（3か年計画の2年目）	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
--------------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
保護者支援の取組における実態調査と課題の確認、保護者のニーズを確認する（障がいのある子）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内在住の障がい福祉サービスを利用している児童の保護者を対象に、保護者支援に関するアンケートを実施した。</li> <li>アンケートを180部配布し、108件の回答を得られた。</li> </ul>	アンケート結果から「子どもの将来」、「福祉サービスの情報」について知りたいという意見が多いことが確認できた。	福祉サービスに関する情報を含め、卒業後の進路や就職、生活について必要な情報が提供できる仕組みづくりを行う必要がある。
みよし市手をつなぐ親の会が実施する「フリートーク」に参加し、保護者支援の機会として活用できるように検討する。	3回実施された「フリートーク」に参加した。参加保護者は2名（6月）、4名（9月）、2名（2月）。	参加者から「助言や情報をいただけて良かった」、「進路や年金等についても聞いてみたい」という意見を聞くことができ、保護者支援の機会・ツールとして活用できることが確認できた。	参加者の不安や心配ごとの軽減に繋がり、保護者支援の機会として活用できている事が確認できた。部会としての取組は今年度で終了とするが、相談支援専門員の参加を継続できるよう検討する。

## 2-③ 目標、達成度

中学校からその先の進路（特別支援学校以外）において、支援が途切れずに継続できる体制が整っている。（3か年計画の1年目）	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-------------------------------------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
特別支援学校以外の高等学校（三好高等学校・衣台高等学校・日進高等学校）及び専門学校（山本学園・名古屋情報専門学校）へ進学する子の情報提供について、現状と課題を確認する。	高等学校（3校）、専門学校（1校）を訪問し、中学校が作成している「個別の教育計画・指導計画」の引継ぎ及び活用方法についてヒアリングを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校等では、「個別の教育計画・指導計画」が活用されており、不足する情報について中学校との情報交換会を通じて補完されていることが分かった。</li> <li>情報を引き継ぐための本人や家族の同意が得られず、入学段階で情報がないケースや保護者が障がい認めず、情報の公表を拒否するケースが多いことが課題ということが分かった。</li> <li>特別支援教育連携協議会に課題を提示したところ、「情報を引き継ぐための同意を得られなかった場合でも、心機一転して新しいスタートをしたい本人や保護者の思いにも考慮が必要。」という意見が出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒアリングの結果、高等学校及び専門学校からの困り感は聞き取ることができなかったため、部会として「入口部分」に関する調査は一定の成果が出たと判断した。</li> <li>ヒアリングを通じて把握した課題を深掘りし、未認識の課題も含め、その解消方法を検討する。</li> </ul>
課題を一覧にまとめ見える化し、対応策を検討する。	ヒアリングの結果を整理し、学校教育課が開催する特別支援教育連携協議会に課題を提示した。		

### 【放課後等デイサービス連絡会について】

今年度は、目的の明確化や連絡会の必要性に関して見直すため、放課後等デイサービス事業所へのヒアリングを行うとともに、放課後等デイサービス連絡会の担当を経験している職員と話し合いを行ったところ、連絡会の必要性や継続を望んでいる事業所が多くあることが判明した。話し合いの中で、連絡会を継続していくために、開催目的や流れを作れるまでは部会がイニシアチブを取る必要があると確認できたため、次年度の目標として取り組むこととする。

## 4 次年度の目標（案）

① 保護者が安心して子育てをしていく体制ができている。（3か年計画の3年目）
② 放課後等デイサービス連絡会をサポートできている。
③ 中学校からその先の進路（特別支援学校以外）において、支援が途切れずに継続できる体制が整っている。（3か年計画の2年目）

1 目的

働く意思を持っている障がい者並びに障がい者を雇用している企業または雇用しようとしている企業を支援するために、必要なシステムや事業等を協議・検討し、具体的に実施する。

2-① 目標、達成度

市内の福祉的就労事業所利用者の生活が経済的に豊かになっている。 (例：グループホーム利用者の手元に、サービス費用、家賃、食費、光熱水費等を除いて 25,000 円残っている)	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
--------------------------------------------------------------------------------------------	----------	------	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
他市の共同受注システムの現状と課題を共有する。	豊田市、瀬戸市、伊丹市、厚木市に共同受注窓口の現状及び課題についてヒアリングを行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口担当者を配置し、自主製品の販売ルートの確保や内職受注、事業所への振り分け等を行っていることが分かった。</li> <li>担当者のみの活動になっていることや振り分け事業所がある特定された事業所に集中している等の問題があることが分かった。</li> </ul>	みよし市で必要とされる共同受注システムの構築に向けて、業務受注（内職・施設外）の確保及び拡大・自主製品の販路拡大について、市内事業所も含め協議を継続する。
みよし市における共同受注システムについて協議を行う。	事業所の現状と課題、共同受注システムの効果について、市内 13 福祉事業所と意見交換を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>内職作業の受注は、工賃アップの効果を期待できないという意見が出たが、反対に、利用している方の仕事の幅や事業所利用対象者の幅が広がるとの意見もあった。</li> <li>自主製品の販路確保に苦慮していることが分かった。</li> <li>施設外就労は工賃アップに最も効果があるが、企業の理解が必然で、支援者のスキルアップが必要であることが分かった。</li> </ul>	

2-② 目標、達成度

障がい児の学校卒業後の進路に関する不安が軽減され、本人の能力や希望に応じた進路選択ができています。	取組内容の達成度	75%	次年度の方向	継続
---------------------------------------------------	----------	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
特別支援学校以外の高等学校（三好高等学校・衣台高等学校・日進高等学校）、専門学校（山本学園・名古屋情報専門学校）における進路支援の現状と課題を確認する。	高等学校 3 校、専門学校 1 校に進路支援に関するヒアリングを行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みよし市の相談支援専門員の機能や就労支援事業について紹介することができた。</li> <li>生徒の大半が特別な支援が必要であるということ、手帳取得が必要と思われる生徒へのアプローチ方法に困難さを感じていること、障がい者就労の支援知識がなく限られた求人だけに頼っている状況が分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校の就労支援経験（就労支援の手法）を共有できる機会があると良い。</li> <li>就職支援以前の段階において大きなハードルがあるため、卒業後の困り事に対する気づきの支援に関して、教員と検討できると良い。</li> </ul>
特別支援学校、高等学校、専門学校における進路支援に関する課題を共有し、解消に向けて協議を行う。	特別支援学校、高等学校、専門学校における進路支援に関する課題を事務局で共有した。		

## 2-③ 目標、達成度

障がい者の一般就労の支援に関する現状と課題が部会員で共有されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
------------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
部会で、障がい者就労支援事業担当者からの報告を受ける。 必要に応じて、課題の解消に向けた協議を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者就労支援事業の実績報告を受けた。</li> <li>就労支援部会及び就労支援事業で取り組んでいる地域課題について報告を行った。</li> </ul>	障がい者就労支援事業の取組内容及び就労支援部会等で取り組まれている地域課題について、部会構成員に共有できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会構成員に引き続き地域課題等を共有する。</li> <li>就労支援事業で確認できた企業と福祉事業所の繋ぎ方の課題について、就労支援員が目標①のワーキングに参加し、検討を進める。</li> </ul>
就労選択支援の円滑な実施に向けて調査、検討を行う。	部会において、みよし市における就労選択支援の現状や課題について協議を行った。	みよし市の障がい者就労支援体制の現状等を再確認し、関係者で共有することができ、みよし市版就労アセスメントフロー図の作成に繋がった。	就労選択支援事業の目的に対しては、現在の相談支援及び就労支援体制で対応できているが、今後も市内での就労選択支援実施に向けて検討を継続する。

## 4 次年度の目標（案）

① 市内の福祉的就労事業所利用者の生活が経済的に豊かになっている。（例：グループホーム利用者の手元に、サービス費用、家賃、食費、光熱水費等を除いて25,000円残っている）
② 障がい児の学校卒業後の進路に関する不安が軽減され、本人の能力や希望に応じた進路選択ができている。
③ 障がい者の一般就労の支援に関する現状と課題が部会員で共有されている。

令和7(2025)年度みよし市地域自立支援協議会 精神保健福祉部会 事業報告書

(作成日：令和8(2026)年3月11日、担当：みよし市社会福祉協議会 相談支援専門員)

1 目的

精神保健福祉の関係機関が連携し、精神障がい者が地域で安心して生活していけるよう、支援システムを構築する。

2-① 目標、達成度

精神障がい者の地域生活を支えるためにピアサポートの力を活用できている。(3か年計画の3年目)	取組内容の達成度	90%	次年度の方向	継続
------------------------------------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
ピアサポーターとして活躍する新たな人材の発掘のために、啓発を目的としたイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習会やミーティングを定期的で開催し、ピアサポーターに主体的にイベントの企画に参加してもらった。</li> <li>• 1月に開催された愛知県精神障害者ピア活動支援研修に3名(初参加2名)が参加した。</li> <li>• 新たな人材確保を目的に、メンタルヘルスパピアサポート体験会を2月に開催した。4名が参加し、次回ミーティングへの参加を促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ピアサポーターとしての意識が育成された。</li> <li>• 愛知県の研修に参加し、知識や意欲を持ったピアサポーターが増えた。</li> <li>• ピアサポートに興味を持った当事者や支援者が増え、次代を担う人材の育成につながった。</li> </ul>	ピアサポーターの育成及び伴走支援、活動調整等の役割を精神障がい者等サポート事業が担い、必要に応じて部会で後方支援を行う。
ピアサポーターが活躍できる機会の開発、ピアサポーター活用のための啓発活動を行う。	民生児童委員全員研修において、61名の委員に向けてリカバリーストーリーの発表を行った。	精神疾患やピアサポーターの役割について周知できた。	ピアサポートの力を活用し、精神障がい者が安心して生活できる地域づくりを進めるために、引き続きピアサポーターが活躍する場の開発を行う必要がある。
ピアサポーターを支える仕組み(登録方法・派遣の流れ・報酬の規定等)作りを行う。	他市の要綱を参考に要綱(案)を作成した。	仕組み作りに向けて検討する準備ができた。	今後も市と協議しながら仕組み作りを行う。

2-② 目標、達成度

市の精神保健福祉の現状と課題が部会員で共有され、課題解消に向けて具体的に取組まれている。(3か年計画の3年目)	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---------------------------------------------------------	----------	------	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
R6年度に作成した入退院時のフロー図を基に、医療機関と地域の支援者が連携し、課題を確認、修正を経てフロー図を完成する。	医療と福祉の連携ワーキングを9月に開催し、3医療機関、保健所、8名の相談支援専門員が顔を合わせてケース共有及び演習を行った。	入院から退院後までのフロー図を基に演習を行うことで、お互いの立場のルールや課題を知ることができた。	毎年1回ワーキングを開催し、連携の強化を図る必要がある。
福祉事業所の現状と課題を確認し、対応策を検討、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 9月に福祉的就労を行う6事業所にヒアリングを行い、課題を集約した。</li> <li>• 3月にワーキングを開催し、4事業所が参加した。</li> </ul>	精神疾患についての情報共有及び対応策についての意見交換を行い、各事業所の対応のスキルアップを図ることができた。	定期的にワーキングを開催し、課題の解決策を検討する。
ひきこもり支援連絡会に参加して課題を確認し、自立支援協議会構成員に報告、共有する。	ひきこもり支援連絡会に参加し、協議内容等を部会で報告した。	関係機関の取組を共有し、ひきこもりケースへの具体的な支援内容を共有することができた。	今後も継続的に参加し、関係機関の協力体制の構築を図る。

## 2-③ 目標、達成度

精神の障がいや疾患を抱えている人に必要な情報が届いている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	終了
-------------------------------	----------	------	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
各関係機関が把握したひきこもり世帯へのアプローチに協力し、当該世帯へ社会資源等の必要な情報を届ける。【ひきこもり支援連絡会とコラボ】	ひきこもり支援連絡会構成機関と情報共有し、ケースの把握を行った。また、関係機関で連携し、ひきこもりケースの問題解決に向けて取り組んだ。	ひきこもり世帯へ社会資源の情報を届けることができ、社会とのつながりを作ることができた。また、取組により地域の支援者が増え、今後の介入方法の選択肢が広がった。	ひきこもり世帯への介入は関係機関で協力し慎重に対応していく必要がある。部会としてひきこもり支援連絡会に引き続き参加し、協力関係を築いていく。

## 4 次年度の目標（案）

① ピアサポーターが活動しやすい環境が整っている。
② 精神疾患のある人が就労系事業所で働きやすい・利用しやすい環境が整っている。
③ 入院中から退院後の生活を支える体制が整備されている。

## 1 目的

日常生活を営むために医療を要する状態にある児（者）（以下「医療的ケア児（者）」という。）及びその家族の住み慣れた地域での生活をサポートするために多職種が集まり、必要なシステムや事業などを協議・検討し、具体的に実施する。

### 2-① 目標、達成度

医療的ケア児（者）が災害時に避難できる仕組みが構築できている。（2か年の2年目）	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	継続
------------------------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
災害時に必要な物品リスト及び周知リーフレットを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>物品リストの見直しを行った。</li> <li>医療的ケアに必要な情報を記載した災害時情報シートをQRコード化し、対象者が自己管理できるようにした。また、情報シートを周知するためのチラシを作成した。</li> </ul>	医療的ケアに必要な情報を対象者が自己管理できることで、市指定の個別避難計画と合わせて、必要に応じて対象者が支援者に医療的ケアの情報を確認してもらうことができるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーションを行い、課題の確認を行う。</li> <li>災害時情報シートの周知を行う。</li> </ul>
医療的ケア児（者）の個別避難計画を作成し、必要に応じシミュレーションを行い、評価を行う。	医療的ケア児（者）の個別避難計画を作成した。		

### 2-② 目標、達成度

緊急時における医療的ケア児（者）の受け入れ場所が確保できている。	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	継続
----------------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア児（者）の一時的な受け入れに向けて、市内医療機関との座談会を開催し、イベントにも参加する。	対象者に市内医療機関で開催するイベントの周知を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内でレスパイトを必要としている方を市内医療機関に知ってもらうことができた。</li> <li>先行して受け入れを行う医療機関の運用方法や課題、工夫等を把握することで、市内医療機関の不安事項の明確化及び解消ができ、受け入れ体制作りに向けて進めることができた。</li> </ul>	座談会やイベントの参加を継続し、市内医療機関との連携強化に向けて取り組む。
医療機関の不安事項等について明確にし、解決できる仕組みを作る。	市内医療機関と部会事務局でトヨタ記念病院に受け入れ方法や課題等の確認を行った。		

### 2-③ 目標、達成度

医療的ケア児（者）の現状と課題が部会員で共有され、課題解消に向け具体的に取組まれている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
----------------------------------------------	----------	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア児（者）が抱える課題の整理と情報共有を行い、部会の議題として提案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WGを4回開催し、市内在住の医療的ケア児の情報共有や課題を確認した。</li> <li>課題を整理し、部会に議題を挙げた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内在住の医療的ケア児の情報を共有することで、1人で抱えるのではなく、WG構成員全員で支える仕組みができた。</li> <li>医療的ケア児在宅レスパイト事業の予算化につながった。</li> </ul>	医療的ケア児等コーディネーターWGを継続して開催し、課題を集約する。

「医療的ケアが必要な方の情報ガイド」をNICU・GCUのある医療機関に周知する。	担当者が変わった NICU・GCU があるトヨタ記念病院、藤田医科大学病院に再度周知した。	みよし市の医療的ケア児等コーディネーターの役割を周知できた。	他医療機関へも周知する。
就園、就学に必要なフローチャートを作成する。	フローチャートを作成し、就園、就学に関わる庁内関係機関に周知した。	医療的ケア児等コーディネーターが介入するタイミングが明確になり、各機関の共通ルールとなった。	フローチャートを作成できたため、今年度で終了とする。
保育・教育の場で市内の仕組みや医療的ケア児の普及・啓発を各課で定例化する。また、市内事業所や訪問看護ステーションを対象に、連携強化を意識した研修を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育の場で取組を定例化できた。</li> <li>・1月に市内事業所や訪問看護ステーション等を対象に研修会を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関に医療的ケア児等コーディネーターの役割や担当者の周知ができた。</li> <li>・福祉事業所と訪問看護ステーションの役割を知ることで連携強化につながった。</li> </ul>	関係機関の担当者は毎年変わるため、連携強化に向け、継続して研修を開催する。

#### 4 次年度の目標（案）

① 医療的ケア児（者）が災害時を想定した実践を行い、課題を明確にし、解決に向けて取り組まれている。
② 緊急時における医療的ケア児（者）の受け入れ場所が確保できている。
③ 医療的ケア児等の課題の解消に向けて、具体的に取り組まれている。